５　今年度の重点課題　（学校アクションプラン）

令和５年度　　雄山高等学校アクションプラン　　－１－		
重点項目	（１ 学習活動）学習活動	
重点課題	教科指導方法の改善と基礎学力の定着・充実	
現状	・与えられた課題に真面目に取り組んでいる生徒がいる一方で、自身の進路に対する具体的な目標を明確に持てないため、学習意欲が低く、家庭学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。また、予習・復習にかける時間に個人差があり、基礎学力が十分に定着していない生徒が多い。 ・教員間での互見授業や生徒に対して授業アンケートを行い、校内外の教員や生徒からの評価をもとに、各先生方で授業改善に取り組んでいる。	
達成目標	①生徒の授業内容の理解度 ５段階評価で４以上とした生徒の割合	②学習内容を理解するための、粘り強い取り組みの状況 ５段階評価で４以上とした生徒の割合
	６０％以上	６０％以上
方策	・ワークシート等を用いて、生徒の理解度を把握し、授業改善につなげる。 ・授業アンケート（７月・12月）を実施し、実態を把握する。 ・ＩＣＴを活用し、理解や思考の深まりを促す。 ・生徒の主体的な学びを促すために、ペアやグループでの協働的な学びの場面や自らの考えを広げて深める対話的な学びの場面を設定する。	・授業アンケート（７月・12月）を実施し、実態を把握する。 ・基礎学力定着に向けて週末（週間）課題等を工夫して与え、生徒が学習習慣を身に付けられるようにする。 ・担任による個別面接等で生徒の学習の取り組み状況を把握し、進路目標と絡めて主体的に学ぶ意欲を喚起する。 ・具体的な進路目標をもたせられるよう学年や進路指導部と連携をし、自分に合った学習の進め方を考えさせ、計画的に学習に取り組ませる。

（評価基準　A:達成した　B:ほぼ達成した　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった）

令和５年度　　雄山高等学校アクションプラン　　－２－		
	（２ 学校生活）規範意識の向上と保健指導	
重点課題	遅刻数の減少	自己解決能力を育む
現状	・生徒一人あたりの年間平均遅刻数は下記のように推移している。 H23年度…1.30回　H30年度…1.06回 H24年度…1.34回　Ｒ１年度…0.92回 H25年度…1.32回　Ｒ２年度…0.43回 H26年度…0.95回　(R2は4,5月休校) H27年度…1.11回　Ｒ３年度…0.85回 H28年度…1.13回　Ｒ４年度…0.78回 H29年度…0.94回	・心身の不調が睡眠不足や生活習慣の乱れにつながり、授業や部活動に集中できない生徒がいる。 ・コロナ禍の影響もあって人間関係が希薄になり、悩みや不安の解消方法がわからない生徒が増えている。 ・保健室の来室状況において「気持ち」が来室理由の上位にある。
達成目標	①生徒一人あたりの年間平均遅刻数	②心の不調に対する自己解決能力の育成
	1.0回未満	生徒が、悩みや不安に対処するための知識やスキルを獲得する。
方策	・8:40着席を徹底させる。 ・遅刻回数が目立つ生徒に対して面接指導を行い、改善を促す。	・アンケートを年２回実施し、自分の生活を振りかえって心身の健康課題を把握し、それを改善する方策について考える機会とする。 ・「保健だより」や生徒保健委員会で、ICTを活用し、心身の健康に関する情報を発信する。 ・ＳＣによる講話等を行い、心の健康を保つための知識と理解を深める。

（評価基準　A:達成した　B:ほぼ達成した　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった）

令和５年度　　雄山高等学校アクションプラン　　－３－		
重点項目	（３ 進路支援）進路実現を図るための基礎力の充実	
重点課題	進路意識の向上と進路支援の充実	
現　　状	・社会とのかかわりの中で自己を見つめ、自らの進路を具体的に考えようという意識に乏しい生徒が多い。 ・進路実現に向け、向上心を持って主体的に挑戦する姿勢に乏しい。	
達成目標	①１、２学年生徒へのアンケートで、自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合	②３学年生徒へのアンケートで、進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合
	９０％以上	９０％以上
方　　策	・適性検査及び進路ガイダンス、校外進路学習、職業人講話、立山町企業見学、インターンシップなどの学習により、自己を見つめ、自己理解・社会理解を深めるようにする。 ・担任面接の機会を重視し、生徒の進路意識を向上させるようにする。	・オープンキャンパス、オンライン説明会、職場見学に意欲的に参加できるように適切な情報を随時提供する。 ・補習や全教員による個別指導などをとおして基礎学力を定着させ、目標達成に向けて更なる進展を図る。 ・面談を重ねることにより、生徒の志望を確かなものとし、最後まで妥協しないよう指導に努める。また、保護者懇談会の機会を利用して、家庭との連携の緊密化を図り、協力を求める。

（評価基準　A:達成した　B:ほぼ達成した　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった）

令和５年度　　雄山高等学校アクションプラン　　－４－		
重点項目	（４ 特別活動）特別活動および図書指導の充実	
重点課題	ボランティア活動の充実および読書習慣の確立	
現　　状	・生徒会からの呼びかけに応じ、校内ボランティアにたくさんの参加がみられた。また地域社会でのボランティアも推奨しており、人に対する思いやりが持てるようになってきていると思われる。感染予防対策が緩和され活動が活性化されてきたため、ボランティア経験率が６１％と向上した。目標には届かなかったがますますのボランティア参加率の向上を目指したい。複数回参加する生徒はもちろん、初めて体験する生徒が多くなるような呼びかけをしていきたいと考える。	・読書好きの生徒がいる一方で、全体として図書に対する興味・関心は依然として低い。そのため、ＨＲや授業での図書室の利用を除くと、自発的に図書室を利用するのは一部の生徒だけである。昼休みや放課後など、図書委員を中心に来館者は微増しているが、生徒全体には、広がっていない。
達成目標	①ボランティアに一度でも参加した生徒の割合	②一日当たりの図書室平均利用者数
	７０％以上	１５人以上
方　　策	・校舎内の活動にとどまらず、日常生活全般において生徒自らが出来るボランティア活動を目指す。 ・ボランティア活動に参加することによって生まれる多くの効果を学習させる。 ・地域に貢献できる活動を目標とするが、身近な活動を重視する。 ・ボランティア活動体験率を確認するために、アンケート調査を実施する。	・図書室の利用者総数とクラス別の図書貸出総数を図書室前に掲示する。 ・授業やＨＲでの図書室活用を促進し、読書へのきっかけを拡大していく。また資料となる書籍の充実に努める。 ・図書委員会の活動の活性化を図り、図書室利用を促進する。 ・図書委員のアイディアを積極的に生かし、図書選定や特集コーナーを設け、読書の魅力をアピールする。 ・検定や小論文対策の書籍・資料コーナーをさらに充実させ、生徒が活用しやすいよう工夫する。

（評価基準　A:達成した　B:ほぼ達成した　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった）

<table>
<tr><td colspan="5">令和５年度　　雄山高等学校アクションプラン　　－５－</td></tr>
<tr><td>重 点 項 目</td><td colspan="4">（５ その他）専門科目(家庭)の学習指導の充実</td></tr>
<tr><td>重 点 課 題</td><td colspan="4">専門科目の基礎的、基本的な知識と技術の習得を図るとともに、生活文化科での学びに対する達成感や充実感を高める。</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="4">・中学校での家庭科の学習内容の縮減や、家庭や地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、創意工夫の意欲が乏しい生徒が増えている。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">達 成 目 標</td><td colspan="3">①家庭科技術検定における合格率・取得率</td><td rowspan="6">②卒業時における生活文化科に対する満足度　90%以上</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>合格率（受検者数に対する割合）</td><td>取得率（在籍者数に対する割合）</td></tr>
<tr><td>４・３級</td><td>食物調理
被服製作</td><td>100%
100%</td><td>100%
100%</td></tr>
<tr><td>２級</td><td>食物調理
被服製作(洋服)
〃　(和服)</td><td>85%
80%
85%</td><td>85%
80%
50%</td></tr>
<tr><td>１級</td><td>食物調理
被服製作(洋服)
〃　(和服)</td><td>85%
85%
85%</td><td>50%
33%
33%</td></tr>
<tr><td colspan="3">※２級（和服）、１級は選択者が受検している。
※前年度までの実績と今年度の生徒の実態をふまえ、検定ごとに目標を設定した。</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・家庭科技術検定合格に必要な学習指導、実技指導の徹底を図る。</td><td>・専門科目全般の学習指導および体験的総合的な学習の充実を図る。</td></tr>
</table>

（評価基準　A:達成した　B:ほぼ達成した　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった）